

人吉市長 松岡隼人様
熊本県知事 蒲島郁夫様

7・4 球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会
共同代表 鳥飼香代子
市花保
清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会
共同代表 岐部明廣
緒方俊一郎

球磨川に溜まった土砂の撤去に関する要請書

昨年7月4日の豪雨で、人吉では20名の方が亡くなりましたが、全てが支流の氾濫によるものであり、亡くなられた場所と時間を詳細に検証すると、仮に川辺川ダムが効果を発揮したとしても命を救うことはできませんでした。

また今回の豪雨では、球磨川の多くの橋が洪水に飲み込まれ流失しましたが、川辺川ダム建設予定地のすぐ上流と下流にある、古くて小さな2つの吊り橋が流されずに残っています。このことは、川辺川上流の雨量は球磨川中流域に比べて少なく、川辺川ダム地点の流量も少なかった動かぬ証拠です。仮に川辺川ダムがあっても、効果が発揮できなかったのは明らかです。

河道掘削は、ダムによる洪水調節よりも確実に洪水水位を下げることができます。河床を1m下げれば、洪水水位も1m下げることができます。また、最近の住民の意識調査からも、河道の土砂の撤去を求める住民が非常に多いことは明らかです。

ところが人吉市の中川原周辺では、2006年1月に一部の堆積土砂が撤去されて以降15年間、河道に堆積した土砂は放置されたままです。堆積土砂は毎年増える一方で、河床も相当上昇しています。そのことが昨年7月4日の豪雨被害を拡大させた大きな要因です。

球磨川流域治水協議会において、国土交通省は今後、球磨川の平水位までの掘削を行うとしていますが、長年の土砂の堆積で河床自体が上昇しています。球磨川下り発船場近くでは、カヌーのパドルが川底に当たり、カヌーの練習ができないほど河床に土砂が堆積しています。平水位までの土砂撤去とともに、可能な河床掘削を行い、平水位も下げるべきです。

そこで、下記2点を国土交通省に対し要請していただくことをお願い致します。

記

1. 平水位以上の球磨川本川と支川の堆積土砂の撤去を今年の梅雨までに行うこと

球磨川流域治水協議会で検討中の、平水位以上の球磨川本川と支川の堆積土砂の撤去を今年の梅雨までに早急に実施すること。中川原の両側を流れるまで堆積土砂を撤去すること。上下流のバランスを十分考え撤去を行うこと。今後も長期的に堆積土砂の撤去を継続すること。堆積土砂の撤去に関して住民説明会を開き、十分に説明を行うとともに、住民の意見を聴くこと。

2. 可能な河床掘削を行うこと

長年の土砂の堆積で河床自体が上昇しています。平水位までの土砂撤去とともに、可能な河床掘削を行い、平水位も以前の状態まで下げる。河道の流下能力を上げるために、人吉市の中川原のスリム化、もしくは撤去を検討すること。

以上